

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：宗谷地区 おしどまり
- 2 事例報告学校名：利尻富士町立鴛泊小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 米 田 達 雄
- 4 キーワード：特色ある学校経営「小中一貫教育」

1 はじめに

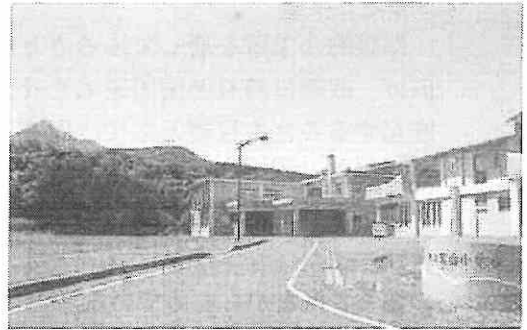
利尻富士町は、宗谷管内の日本海上にある利尻島の北東部に位置しており、利尻山（日本百名山）、甘露泉水（日本名水百選）、自然休養林（森林浴の森百選）やリシリコンブ、ウニなど、豊かな自然・資源を抱える町として水産と観光を基幹産業としている。

本校は、明治22年に利尻小学校鴛泊分校として開校し、今年で135年目を迎える歴史の古い学校である。

本校の保護者は、学校行事や奉仕活動への参加・協力が積極的であり、余暇活動への参加も多い。そのため、地域スポーツ少年団等に参加している児童が多いのも特徴である。児童は明るく素直で、勤労に対して意欲的に取り組むことができる。その反面、自信がもてなかったり、自己肯定感、自己有用感が低かったりなど、子ども同士のコミュニケーション能力に弱さが見られ、今後の取り組むべき課題として考えている。

利尻富士町では、令和5年度から正式に中学校区単位で小中一貫教育を導入した。「自然を愛する豊かな心と高い知性を持ち、未来を生き抜くたくましい子ども」をめざす子ども像として掲げ、鴛泊地区と鬼脇地区の二つの中学校区で進められている。

本校は徒歩5分の距離にある利尻富士町立鴛泊中学校と1小1中の施設分離型による小中一貫教育を推進しており、児童生徒の行き来が徒歩で可能な恵まれた環境にある。



2 小中一貫教育導入の経過と学校経営

小中一貫教育の取組は、平成30年度に鴛泊地区学校運営協議会から始まっている。

さらに令和2年度からは、指導方法工夫改善事業で鴛泊中学校に数学教諭が加配されて、5・6年生の算数の授業でTTと少人数指導を開始した。

令和3年度から「学校評価アンケート」を鴛泊中学校と統一したアンケート項目で実施し、令和4年度からは中学校と学校経営方針の統一化を図ってきた。

また、本校の学校教育目標が昭和55年に制定されたものだったので、時代や学校の実態と噛み合わないものになっていた。小中一貫教育の導入にあわせて、学校教育目標を本校独自に制定し直した。

「めざす児童像」については、鴛泊中学校の「めざす生徒像」と揃えることにより「鴛泊地区小中一貫でめざす子ども像～15歳の姿～」を策定した。

学校教育目標

令和五年（二〇二三年）四月一日制定

「学び」で未来を創造する

「めざす児童像」

- 一 主体的に学び、確かな資質・能力を身に付けた児童
- 二 他者と協働し、よりよい生き方を考えられる児童
- 三 心身が健康で、ねばり強く努力できる児童
- 四 地域・社会に学び、参画できる児童

【鴛泊地区小中一貫教育でめざす子ども像】
ふるさとを愛し、未来を切り拓く自立した子ども
～十五歳の姿～

3 鴛泊地区小中一貫教育の具体的な実践

【令和5年度の取組】

(1) 中学校教員が教科の専門性を生かし、小学生に授業を実施

- ・今までは数学教員が小学校に出向き、算数の授業を実施・補助を行ってきた。小学校の5・6年生の外国語を中学校教員が担当し、中学校の教室で授業を開始した。

(2) 日課を調整し、乗り入れしやすい環境の整備

- ・外国語の授業を午後に行うことにして、昼休みに児童が移動できる工夫。(引率はALT)

(3) 系統的な「総合的な学習の時間」の実施

- ・9年間を見通した目標、活動内容に整理して実施する。

(4) 運動会の同日開催

- ・午前中に小学校、午後から中学校で開催し、児童生徒が競技に参加したり、運営の補助を行ったりする。午後、合同開催を視野に入れて推進していく。

(5) 学習規律や生活のきまりの整理・統一

- ・小学校で培ってきた力を中学校でも引継ぐために整理・統一する。

(6) 小中合同授業研究の実施(年4回)

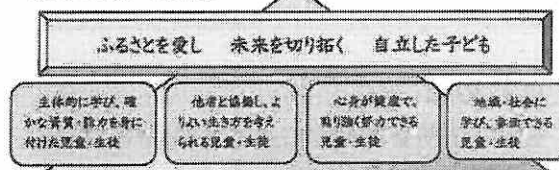
- ・学習スタイル(方法)を統一し、協働的な学びを推進していく。現在は、別々の研究主題であるが、今後、統一していくことで教員の授業力向上や中1ギャップの未然防止に努めていく。

鴛泊地区小中一貫教育に向けて

☆小中一貫教育の目的

義務教育9年間を見通して、学校・家庭・地域が一緒に、児童・生徒一人一人に確かな学力と未来を切り拓いていく力を育てていく。

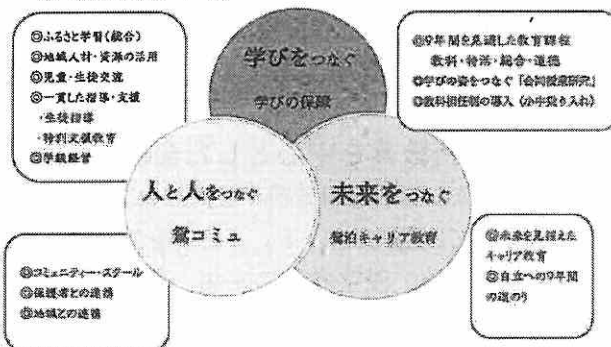
☆めざす子ども像～15歳の姿～



☆9年間の在り方～3つのステージ～(案)

Ⅰ期				Ⅱ期			Ⅲ期	卒業後	
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高校
基礎・基本の定着 生活・学習習慣の定着				基礎・基本の徹底 中1への丁寧なつなぎ			応用・探究への進化 「責任」と「道徳力」		

☆3つの「つなぎ」をキーワードに



中学校での外国語の授業



小中合同研修(グループ協議)

4 おわりに

「できるところからスタート」を合言葉に、鴛泊地区小中一貫教育を開始してきた。準備期間が1年6ヵ月という短い期間にもかかわらず、正式に小中一貫教育を導入することができたのは、各校のミドルリーダーや教職員の奮闘と利尻富士町教育委員会の支えのおかげだと感じている。

まだまだ未熟で、成果よりも課題の方がたくさん見られるが、小・中学校の教職員のアイディアを生かし、「夢と希望」を語り合いながら鴛泊地区の子どもたちを義務教育9か年でしっかりと育てていきたいと考えている。「ふるさとを愛し 未来を切り拓く 自立した子ども」を育成するために、鴛泊中学校と二人三脚で学校経営や教育活動の充実に努めていきたい。